南畝莠言

上

1 5
1573
1

門 15
號 1573
卷 1

二冊

蜀山先生隨筆

文寶亭筆錄

苗亦莽言

東京書林

萬笈閣藏

苗亦莽言引

南山書屋

予幼好讀書。家貧乏書。或借諸人。或閱諸市中。歲節縮衣食。購得書卷。世故紛紜。老亡至矣。自少至老。抄圭不倦。遇見聲觀。皆加疏記。積為數卷。管公不云乎。學問之道。抄出為宗。予竊欽焉。又寶亭見而悅之。与圭博庶。星罗課。但抄但刻。旦夕而示之。流觀一遍。不復詮次。苗亦莽之因。不啻至遂乘

滓穢。其於莊苑也。若苗之有莠也。名曰莠言者為〻也。吁。歳垂七十。而不著一己。不為一事。共騎〻者。亦是自口。固不足取矣於大方也。恐指摘於考據之家矣。僅使要家児孫。謂祖翁亦解読書則可矣。丁丑小春。杏花園主人識。

南畝莠言巻之上目録

一 二十六夜の三尊の光
二 八朔十五夜十三夜の名
三 七ツ目の干支
四 時雨の〻〻〻

十二 楓橋寺

十三 往然草ふるゝ小雪の分并鎌倉聚楽のふるゝ見つれぐ

十四 草牛ふるゝ廳より入

十五 六十一年目の暦を用ゆゝ

十六 水引

十七 紙鳶を放ゝ糸をやゝ

十八 鐘を鑄る女人を忌む

十九 芦のゆゝ屋

二十 倡妓の名を世ゝ

二十一 火の用心の水溜桶

二十二 舟のあゆゝ板

二十三 器財を道具ゝ

二十四 刀の大小

二十五 神田明神

二十六 人事

二十七 南堂國ゝ清朝へ象を貢ゝ

二十八 名画を對幅ゝ

二十九 色紙ゝ

三十 飴賣の笛をふゝ

三十一 ゝゝゝ

世五 柔と八木
世六 藏の棟木
世七 書狀と恐悦の字
世八 童子の戯目比膝挾
世九 鬼ごゝろの戯
卅 鶴乱と博乱
卅一 仏戦
卅二 瀬戸物
卅三 前栽前水
卅四 憑子
卅五 五色の月笙
卅六 夏の雨馬の背

卅七 蚊の
卅八 唐の双陸并圖
卅九 正月の氣
卅 子の親
卅一 辻番の布子
卅二 俵の字
卅三 尾州熟田の楊貴妃の祠
卅四 今所くよあるの發句の碑
卅五 南禪院の名木
卅六 陶淵明の菊王子猷の竹
卅七 牟の字
卅八 峠の字

茅屋根と改め〳〵尾屋よとゝべきの今
画の標榜
古列女傳周室三母の傳文
具足櫃よ春画といふ
今十七史よ宋遼金元四朝別史と加へ廿一史とゝなる
笠と出し笠と上り降とゝる
土佐國同年の侍二人の働
不成就日
日觀要考
細敷天神い讃岐圓座
上利劍
布袋川〳〵
春抄四月朔日〳〵
本卦がへり
大師河原の碑
鶴満丸の名
戻摺石并圖
須磨寺の判札
自休兒の測
國歸よ陽の字と用
前明〳〵語
一種の七種
太閤秀吉公清見寺の和歌并序又西三條實澄卿の詩
石川丈山扇の銘

八三 徂徠古今集と〻〻
八四 狂歌集と南郭の序
八五 和歌と詩と譯と
八六 新井白石容奇り詩
八七 干果子
八八 味噌
八九 鰹ぶし
九十 〻〻ぶと山椒
九一 菊の葉のつけあげ
九二 菖蒲茶
九三 足利学校易の事

巻上目錄畢

巻下目錄

一 升平昇平の文字
二 平相國の法名
三 松殿摂政資盛と乘合の異同
四 尊氏公安國寺と〻〻
五 海水赤色と変ぶ
六 香月牛山西瓜の事又松園玄達蕈と徂徠と贈る詩
七 普濟寺の石幢并圖
八 武州赤塚大堂の鐘銘
九 古の寺社の數
十 南郭翁のかゝ文
土 新宅二年煤と〻〻

㊀ 達磨忌
㊁ 八丈島為朝の遺物并圖
㊂ 再昌院北村翁の墓
㊃ 東坡三度赤壁を拓す
㊄ 低枕の養生
㊅ 古人雪舟の画を賞し
㊆ 史記抄よりみる史記家漢書家并師行未師行の事
㊇ 同書よりみる應仁の乱の實録
㊈ 朝鮮板の法華科注三百年餘の本
㊉ 山谷の書を学ぶ事
㊊ 元興寺の畏面并圖
㊋ 一節切尺八の考へ并圖
㊌ 調子肝要の事
㊍ 人みな扇帝を書
㊎ 美濃と近江の寐物語
㊏ 美濃の念佛橋
㊐ 目黒の地名
㊑ 滕文公の領分并漢の世物價の考
㊒ 乾隆の初麒麟出し事并圖

總目錄畢

南畝莠言卷之上

杏花園主人著　門人文寶亭筆錄

一　明の薛文清公の讀書錄に云二十三四夜深時月初出東方其終魄于東之光比未望載魄之光也光明者蓋初昇之日光也甚西下之日故其光明如此云云　按ずるに今世俗に二十六夜の月を拜し月出るを待ち三さるを

二　八朔を時候之節といふ僧義堂の空華日工集に見えし八月十五夜を桂華會九月十三夜を後華會と云ひ真俗文談に云

三　俗に巳が年の十二支に七月に出るものを龍頭新字元亀大全に

[illegible]十二ヶ月相冲子午相冲寅申子冲酉
相冲辰戌相冲巳亥子冲丑未相冲[illegible]ハ
[illegible]

四 世[illegible]時雨の[illegible]　宗祚
世[illegible]宗祚の[illegible]
此二句人[illegible]吉世拾遺後村上院の
沖句ヨ
世[illegible]時雨の[illegible]白人の[illegible]
[illegible]

五 清の趙恒夫ガ寄園寄所寄子　婦錢說筆　[illegible]晋圭儒林
傳贊清真守道抗志柴門詩人多用柴門字原出於
此[illegible]柴門の字晋圭[illegible]後漢書

楊震傳ヨ柴門絶賓客[illegible]同圭酷吏周紡傳ヨ紡自謂
無全乃柴門自守以待其禍[illegible]又淮南子
道應訓ヨ柴箕子之門註ヨ護也[illegible]塞ゴ漢[illegible]
意[illegible]和秋ヨ[illegible]柴の戸[illegible]

六 甲陽軍鑑ニ云人間六十二年ヨ[illegible]ヨ云山谷跋
旧書詩卷云星家言六十二不死當壽八十餘[illegible]
[illegible]一時の[illegible]山谷の文[illegible]
[illegible]

七 僧横川ガ京華集巻五ヨ云歳旦試筆者古今之常也宋元
以来詩人集中此ニ在焉未多見也[illegible]按ズルニ聯珠
詩格ヨ成文幹歳旦の詩[illegible]此方の詩人歳旦の題[illegible]

又五山の僧徒の年号の一字を以て十二支と為す〻〻横川が京華集に應仁元年丁亥と仁亥と紀し万里の帳中香に延徳三年辛亥と延亥と紀せるが如し聯珠詩格の序（番易黙齋）に大徳元年丁酉と紀し〻徳酉〻〻〻〻〻〻〻〻形〻〻〻〻〻〻〻〻

寺也邑百里無山何山之足名寺必兼山寺之斯山之矣或曰竟陵
者陵之所竟也茭葵蒲葦之間稍圃焉脊焉亦山之矣是三者皆
無據然称為十八灣者尤著云此方の寺の多きも山号を称ずして
寺号のみ多し此方の時の京都の山号を称ずして寺号のみ多し必山号あ
云和答勝義中有叙芋持旧號鳳凰山今以寺在城中無復山名而義中偈
中以山名見戯故及之云城中的本無山枉被時人喚住山鳳凰已去梧桐
老莫說空名到此間

十 遵生八牋起居安楽牋の中より如尾匠麗有合脊中放工人
舩傘之類或望中置匙一筋曰只許住一時其家便破云按ずるに
京都智恩院の石柩に傘と桜と画かれたるもの
又倅人最忌倒用木植必取生氣根下而稍上其麗者倒用之使人

家不能長進作事顛倒解法以斧頭擊其木曰倒好ニ住此宅内世ニ
温飽云云

十一 世よ酩酊の之形よ圖とりのみ老子孔子釋迦のかたちと画
けるを按ずるに趙子昂が東坡懿蹟の図と巻ものの中より
東坡黄門黄魯直等に佛印と共に佛印いまの吾桃花酷似
浮屠甚美なるもの賀と蠻の時の人称ずる之酸と
称して東坡山谷佛印とあるもの老子孔子釋迦の僧侶
川が京華集より三教吸醋圖詩云翁三兄醋到其隣聲膊忍酸寒迫身李
白題詩妙於畫拳盃邀月影三人ちゝば此ちゝ謹案ずるに久し

十二 紫陽素隱が三體詩抄より云九淵和尚入唐の時に寒山寺（ワザト行テ
見タトテ拈ラレシガ楓橋ノ橋ハ石橋ナリ楓ハ二三本アリ楓橋寺ノ内
ニ太平寺ト云ガアルゾソノ寺ニ般若函ノアルヲ見タレバ封橋常住

東坡先生懿蹟圖中
所載三酸圖

山谷

書付タヅ然レバ昔ハ封橋寺ナルヲ後ニ楓橋寺トバシ云タカ又寺前ニ茶屋ガ有シガ其額ヲ江村トウツタヅ寒山寺トハ楓橋寺ノ佛殿ノ本尊ガ寒山拾得ジヤヅサルホド二寒山寺トモ云ヅ鐘ハ佛殿ト法堂ノ間ニアルヅ銘ヲ夜半鐘トキツタヅ此義ハ常菴ノ講ヅ即自筆ノ抄ニモカク書付ケラレタヅ又天龍策彦ガ南遊藁ニ楓橋の詩楓橋未断僅看縱人物難逢境易逢張継去来無宿客旧時山茶旧時鐘トツヽふる五山の諸老南遊ヽくまゝ見ヽ景ヽ有めづ今の世よい人物ヲ逢ヽ

十三 羅山先生つれゝまゝ野槌ヽ云妙くこゆきさんばのこ松よりゝ事ヽ林つきゝゝひゝゝる仰ゝれバ杉雪ゝたゝれ杉雪ゝ云づさとあゝゝゝ

ふるてゝあるものゝ昔ゝ
[illegible]
[illegible]紀貫之土左日記ゝ毎ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大師ゆうぐうの毎年三月十日に於てゆうかの供奉をして人多く
あつまり来て法花会をとりおこなふと云つゝ
ゆうぐうの縁起に曰く 又
むまの紙を裹楽城の時京童のかあり きく赤子にて山さ
況のさきをうに妙覚寺の二王門百万遍の内多宝堂でほのくまの
と赤づの明王天火いなづま朱とりぐいちりをの狐大祇園殿
の犬を山まの鳥居猿ごきつい黄赤を早川を馬のうんでをとうら
紅梅のひぶをひぶ申をひぶをうをを肥後殿のひつしさ涙
道殿のさんをを強盗殿のをを小野木殿のををぶ
あり殿の門申けいのうぶ朱ぶを朱を殿のうら
糧く皮を雄のをみぶだをの山の岩つぶきをのををけいを
うげを所材をぶをのををを塩引のさうの

鮫のけををソををび赤ぶび赤ぶに赤をにぶをのけををにをを
佛ぶををぶをの口びをの京永のをを朱金のかをのぶを茶屋の
をのまぶれををのぶををををををををををを朱
朱おをおをををげをを朱つび朱ぶぶを王のををををを
ぶ抜ををををををを中 碟子 寛永甲戌板本
ををれをを多を徳大寺右大臣殿撿非違使の別当の時中門を使廳の
評定をををれををを官人章家が牛ををを廳のをを大
理の夜のけを申の上を光をををれをををを引ををの
怪異ををを朱を陰陽師のををををを各ををを
文の相国ををを牛を別をを引をををををををを
冠弱の官人をを出仕の傍牛ををををををををを
をにををををををををををををををををををを

[illegible]

按ずるに玉海に云嘉祐三年四月十日甲寅蒙茂乗牛昇板敷上為問其事所召也占云下人之中喧嘩吏云云可五日之中已日可慎云云伴牛則給陰陽師也又天変之中大臣可有慎吏云云

又云乗安三年七月十六日丁未中暑今日家中牛昇仍給陰陽師仰秡了[illegible]牛と陰陽師に給ふ例の事なり

十四 呉郡の顧玠が海槎餘録に云儋耳孤懸海島曆書家不能備其黎村各一老習知節候与吉凶避忌之略与曆不爽毫髮大率以六十年已往之跡徴験将来固亦有機巧不能測知嘗取其本熟視字畫訛謬不可識詢其名則曰曆底記今俗に六十一年目に曆の[illegible]いふに扱ふ[illegible]

十五 正字通麪字の下に今切麪曰水引六朝人常言水引餅

按ずるに今の水引といふもの索麪の形に似たり[illegible]

十六 揚子方言に云絡謂之郭注所以轉簍給車也此給の字[illegible]

十七 物理小識に云鑄劍鑄鑪合煉丹藥皆忌裙釵之壓今俗に[illegible]

十八 釋名に云草圓屋曰蒲二敷也總其上而敷下也又謂之庵二庵也所以自覆蓋也按[illegible]草圓屋に和ずるに芦の丸屋なり

十九 明陳継儒が記事珠に宋曾三異が因話録に引くに郢中倡女常擇一人名以莫愁示存古意亦僭甚矣按ずるに此方の倡妓吉野言屋[illegible]代に名づけしなり

二十 今市中の門口に有る大の用心の水溜桶に防虚缸桶といふ

宋岳珂が程史に都人居淺隘猫或嬉敖于外一見不復可尋每得之即持浸戸外防虞缸桶中猫身濕輒紙非其乾不已以故無鳴號者云

又大潙の手陽子と故火長樣と帰田錄に慶曆八年正月十八日夜崇政殿宿衛士作乱於殿前殺傷四人取準備故火長樣登屋入禁中云々

(廿) 艇板い舟のうゆと板し徐氏筆精に古樂府暫泊千渚磯歇不下艇板即今上岸盞板也刻本誤作廷板又宋王陶が談淵に建隆中曹彬潘美統王師平江南二將皆知兵善戰云船前設擂木板道云々擂木板道又ひゆみ板云々又趙恒夫が寄園寄所寄に楊文理が行舟八詠の詩あり題そ蓬樯篙櫓描纜舵跳の八云々その中の跳曰踏破曉霜還有跡溜殘春雨不生苔云々跳も又同物云々又日本風土記語音の部に船具とのし跳板福乃法西云々

(廿一) 呂財と道具云々佛語云々釋氏要覽卷中に道具中阿含經云所言財物可資身進道者即是增長善法之具菩薩戒經云資生須道之具冷齋夜話云予游廬禪山石厓下見一僧云云道具何在伴侶為誰僧虎關濟北集に文德皇帝外紀に未有梵製逮圓祖乖道具漸成梵構云云義經記に云々ふなじるしとけんの具と持て道具と具足りこうぐあるべし山伏よ道具云々

(廿三) 刀の大小云々長短二口云々南齊書本紀第三に武帝の詔に云常所服身刀長短二口鐵鐶者隨我入持宮云云持宮棺のこと

(廿四) 瑯琊代酔編卷十七云皇覽曰山陽鉅澤縣有肩髀冢黃帝殺蚩尤身首異處故別葬亦二冢也拾遺に江戸の神田明神に將門の髑髏を埋

不[illegible]繆王明神の神体いまの首[illegible]須[illegible]播州明石
の平忠度の臍塚[illegible]

(廿五) 雲谷雜記云今以物相遺謂之人事韓退之有奉韓弘人事物
狀蓋自唐已有之云云按[illegible]孔安國古文孝經の序に或以人事
請索之の辭[illegible]自漢已有之[illegible]

(廿六) 南掌國每十四年例貢象四隻乾隆二十八年遣使進大象一小
象三云云[illegible]浮橋散人が秋坪新語に乾隆二十八年六
月の宝曆十三年癸未[illegible]

(廿七) 格古要論に名畫無對軸[illegible]李成范寛穆東坡米南
宮父子皆高尚士夫以畫自娛人家遇其適興則留數筆豈能有對
軸哉今人以孤軸為嫌不豆占之言畫矣 米元章子元暉世称小米
即友仁也按[illegible]に世に称[illegible]本の二幅対と幅対[illegible]

[illegible]俗[illegible]

(廿八) 同書に云古人題畫書于引首宋徽廟御書題跋亦然故宣和間褙書
畫用黃絹引首也近世多書于畫首趙松雪云畫至元朝遭一劫也按
[illegible]庸のこゝい色紙二枚を畫上に押[illegible]今の賢聖の障
子の賛等に真言宗祖師の像の賛ホ[illegible]多帝[illegible]
[illegible]

(廿九) 今[illegible]笛[illegible]古[illegible]詩周頌有瞽篇
曰簫管備舉鄭箋云簫編小竹管如今賣餳者所吹也管如篴併而
吹之[illegible]又明の田汝成が西湖志餘に瞿宗吉が看燈詞に
[illegible]銷金小傘揭高標紅藕青梅滿擔挑依舊承平風景
在街頭吹徹賣餳簫[illegible]都下の神社の縁日[illegible]
[illegible]道[illegible]傘[illegible]水菓[illegible]

以仰ぐ

㊂ 俗忌よこめつこい手つよかりよ男女不親接の禮の道ふるで物を裁縫の具ゝ女のふこのふ

㊃ 文箱のよりよ上と朱漆紅簽の遺言ゝ

㊄ 人の家屋の棟よはつこと用ゝ穀梁傳曰禮天子之桷斲之礱之加密石焉諸侯之桷斲之礱之大夫斲之士斲本今の家ばらはつゝ古人のこのごとく格ふか

㊅ 世俗瓜を割よ上の方をゝ先ゝと鬼ゝ

禮記玉藻曰瓜祭上環食中棄所操ゝ鬼神ゝ

又天子諸侯大夫庶人の瓜と

ゝ禮ゝ曲禮ゝ

㊆ 精ゝ米と麋牙ゝ俗ゝ椹の木ゝ米

ゝ以て拭ゝに日本紀暑花山院寛和元年三月十八日の紀

施以麋牙百許又明月記源平盛衰記ゝ

㊇ 米とハ木とゝ小野宮太大臣殿實資公の小右記

ゝ

㊈ 米の棟木と牛とゝ汗牛充棟ゝ

米ゝ

㊉ 世俗圭狀のよ恐ゝ人ゝ對ゝ怪ゝ

山字恐惶恐ゝの恐ゝ字ゝ

藝字ゝ中山内大臣殿忠親公の貴嶺問答ゝ恐悦

相半ゝ字義ゝ

[illegible]

廿八 僧虎関の異制庭訓に目比頭引膝挾指引腕推指抓宿世結宿世焼と有り宿世結び紐ひとしく結ぶ事

廿九 [illegible]の思ひ[illegible]替思ふ明り

劉侗が帝城景物畧に出る

卅 顔氏家訓に江南閭里間士大夫或不學問羞為鄙朴道聽途説強事飾辞呼徴賢為周鄭謂霍乱為博陸此方[illegible]霍乱と訛て博乱

[illegible]

卅一 五雑組に昔人喜鬪茶故称茗戦銭氏子弟取雲上広各言子之的数剖之以觀勝負謂之瓜戦然茗猶堪戦瓜則俗矣近比市中の者拵[illegible]種の紙とあり[illegible]猪鳳と御[illegible]出[illegible]多づつ[illegible]

子カキ[illegible]と拵[illegible]

卅二 同書に今俗語窰器謂之磁器者蓋河南磁州窰最多故相沿名之[illegible]陶器尾州の瀬戸物[illegible]

卅三 下学集に前栽 前水[illegible]今泉水[illegible]前れ[illegible]

卅四 同書に日本俗出少銭取多銭謂之憑子也[illegible]

卅五 東鑑巻四建長五年癸丑十月十三日戊午今夜戌刻月在五色笠[illegible]

東鑑十三 [illegible]

将軍家覧之被驚思召之処非変異之由司天等申之云云五雑組云人言八月望有月華或言夜半或言微雨後或言不必八月凡秋後之望俱有之或言其五采鮮明旁照数十丈如金線者百餘道或言俱紅雲圍繞之而已余自少至壮徹夜伺之者十数竟不得一見也臨川吳比部撝謙為余言少時曾一見之其景象鮮妍千態万媚眞人間所未見

之奇惜未能操筆賦之耳

又隋園詩話卷十五云余自幼聞月華之説終未見也同年王大司農秋瑞夢月華而生故小字華官後見平湖陸陸堂先生云康熙辛酉八月十四夜曾見月當正午輪之西南角忽吐白光一道已而紅光紺碧約有二十餘條下垂至地良久結輪三匝見月不見天矣先生賦云今宵才見月華圓織女張機也失妍五色流蘊齊着地三重輪廓欲弥天先生名奎勲云云　余以明和八年辛卯九月十三夜小島橘洲名茶從字温之の詩に今宵明月華とうたふ其説まことに五采すべてあるべきことなり

主松名懷之号東作子玉の詩に盛賞せり

(四七)

續博物志云俗以五月雨為分龍雨一曰隔轍雨按ずるに此方にて夏の雨に馬の背をうつ時は

(四七)

世俗ものうるで正月の雨を家引雨といふ蚊のはじめて出るを一番禅尚兼良の世諺問答に世諺曰云

(四八)

五雜組に唐の李郃が骰子選格あり宋の劉蒙叟楊億等が彩選格あり今の墜官圖あり此方の官位雙陸あり又選仙圖選佛圖あり近比水晶宮といふものとえらび西遊記に似たるものし

大水晶宮圖

晶
蝦精
蟹精
魚精
蟹精
蟹精
蟹

[illegible]と起馬[illegible]と馬子[illegible]今其圖を[illegible]
[illegible]兒女の図を[illegible]又骨牌圖[illegible]桃花塢中
桂正奥造[illegible]繫けて畧す

四九 [illegible]正月朔日より十八日まで少年游冶の徒
意のゆ[illegible]ゆる[illegible]小[illegible]瓊を投丸と闘[illegible]を蠅牌[illegible]
[illegible]放課[illegible]今[illegible]
氣の[illegible]十八日より元の燈籠[illegible]学ぶ童[illegible]工人
肆より[illegible]農商[illegible]其業[illegible]執[illegible]収課[illegible]明の田
海寇が西湖志餘熙朝樂事[illegible]

五十 寄園寄所寄より両朝識小録を引て曰魏忠賢柄權朝臣附之者
以為父忠賢目曰乾兒[illegible]世俗より子分[illegible]又乾女娘[illegible]
乾親家い親[illegible]隨園主人の新齊諧より[illegible]

五一 鄙俗のもの[illegible]前白牛[illegible]中より辻番の布[illegible]西へ
入[illegible]拂[illegible]鶴林玉露云京師久雨忽晴兒童懽呼曰黄
綿襖子出矣注謂日煖也[illegible]同日の談[illegible]人情[illegible]

五二 俵の字書より禾苞[illegible]
[illegible]甲陽軍鑑[illegible]杉山[illegible]陣[illegible]俵[illegible]者[illegible]
拂[illegible]馬端臨文獻通考より唐宋和糴の[illegible]論[illegible]自唐始
和糴充他用至于宋而糴遂為軍餉儲邊一大事熙豐後始有結糴
寄糴均糴俵糴博糴兌糴括糴等名何其多也[illegible]中より俵糴[illegible]
[illegible]俵散[illegible]一俵二俵[illegible]

五三 屋別熟因より古[illegible]楊光蛇の詞[illegible]元祿中[illegible]林の中より

五輪の墓石あり〻〻楊貶の墓〻〻いまに其ありて神職掌ち
棄〻〻〻屋別園田新川名提之話あり
五十四 寄園寄所寄云奇雪天門奇勝巖下碑碣塡塞可厭遊人好題亦
是一僻任其土者薫習成風朱書白榜卷石皆徧令人氣短余謂律中盜
山伐鑛皆有常刑俗士毀汚山靈而律不禁何也解脇集今不〻よある誹諧
但の麦白の碑〻又此〻〻〻〻べ〻〻
五十五 僧万里の帳中香六之移竹詩の注云本邦亀山法皇於東洛龍阜之離
宮南禅院聚吉野櫻難波葦立田楓住吉松等栽泉石之池邊丁麦騷屑以
来不存一株哀哉丁麦騷屑い意仁の乱〻〻〻
五十六 陶淵明の菊王子猷の竹林逋が梅周茂叔の蓮人〻ふ〻ふ〻し
陳白沙の木犀孔雀〻〻〻譚友夏い紅蕣〻〻〻其詩〻〻〻〻〻
五十七 牟作殿切音薦俗謂屋斜用牟以土石遮水亦曰牟篇海牟亦
作搢非〻〻正字通〻〻〻〻〻〻僧義堂日工集〻牟明楼〻〻〻〻
俗語〻〻カフ〻〻〻〻〻是〻〻スケカフの音〻轉〻〻〻〻〻
五十八 峠〻〻字甲陽軍鑑〻〻到下〻〻〻〻臥雲日件録〻江文坪と
あ〻中國〻峠〻〻〻〻〻〻峠市佐野のタヲ〻〻〻〻〻
タヲ〻〻〻〻
五十九 玄宗時宋璟為廣州都督廣州旧俗皆以竹茅為屋屢有火
災璟教人燒瓦改造店肆自是無復延燒之患人皆懐惠之頌
以紀其政〻旧唐書本傳〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
瓦〻〻〻〻茅瓦を〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
六十 佩文広書画譜巻五孔子見老子画像人物七車二馬三標榜四惟老
子後一榜漫滅云云〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
瓦〻〻今画図よある方圓□〻〻

(六十二) 刘向古列女傳周室三母云太姒者武王之母禹后云云卒成武王周公之德〻〻君子謂太姒仁明而有德〻〻間五旧刻数十句あり其中よいくさあること蓋十子之中惟武王周公成聖要其安民以播烈光制禮以廣達孝而言之則盛德自然著矣若管蔡監殷而畔乃人才質不同有不可以少加重任者易曰力小而任重鮮不及矣反思其受教之時未必至於斯也豈可以累太姒耶〻〻〻〻昔年些量と様〻〻〻〻

城責ラル晴元モ讃岐守畠山総列モ自身寺タチ数日取巻セメタ
マヘバ此城モ叶ハズシテ笠ヲ上テ降ヲ請ケリ按ずるに笠を出
笠と上るゝいつゝ降と云ふべし

(六十五) 長元記云土佐幡多郡歳同年之侍二人此親ハ討死也高知行ノ跡ナ
レバ役儀之人数召列従歳十三陣ニ立テ十六歳ノ正月ニ北川三瀧ノ城乗
入時ニ一人ハ本丸ノ一番乗也去共諸人ニ被追立処ニ立返メ乗時モ一番
乗也諸人見聞此沙汰耳此光冨ト云人ハ物大将之嫡子也後ニハ光冨権
之助而二人之指折ニ入大将也同年之今一人ハ国人之嫡子也北川殿為被
居ニ之丸ヘ乗入処諸人敵ニ被追立散ニナル時以鑓二本突ヲ見テ
彼人之被官漸ク一人返来テ主人ヲ助退防所ヲ敵鑓二本ニテ切
岸ヘ彼被官ヲ突分ル其時ニ主人十六七間返シ来テ彼被官ヲ助
タリ此被官鑓疵ヲ二十七ケ所負共此時不死一生ハ彼官ニ被助

一生ハ主人被官ヲ助ク主従ノ有様ヲ陣中之諸人此沙汰耳如
件按ずるに土佐軍記二人の指折に乗名孫次郎光冨指と助し
幡多郡立石右京進十六歳北川に籠る二の丸乗付に追立敵の鑓
二本に突かれ被疵に織部と云者あり来て敵と追払て主と助け
其後織部切負て鑓二本にて突られ疵を蒙て追
切て引退き織部と云ふ織部と云ふ織部と云ふ
眉間を負て退く右京進は助勇を主従の働尽あり織部
も不死り長元記に立石助勇の自記ものゆえ人一人と書て
姓名を隠すべし

(六十六) 世俗に正月より七月まで七月より十二月迄と云二二四五六と繰
九月を不成月と云ふ
寛文板の大雑書なるよし

四日 十日 十八日 廿五日 [illegible]

八日 十五日 廿二日 廿九日 [illegible]

此日[illegible]

[illegible] 又似我蜂物語[illegible]

四夜八朝 十夜 十五日 日晴 十八夜 廿二日晴 廿五日夜 廿九日晴 [illegible]

小田原記[illegible] 小田原[illegible]入道が内通[illegible]六月十日彼が持[illegible]

人[illegible]入[illegible] 議定[illegible]日十四日の夜一味の族[illegible]新六郎二男杉田左

馬助三男孫[illegible]内藤左近太田肥後[illegible]

[illegible]中畧[illegible]

[illegible]

[illegible]天正十八年[illegible]此不[illegible]日[illegible]大親王似我蜂物語[illegible]

[illegible]不[illegible]日[illegible]

(六十七)日觀要考一卷ハ朝鮮人延享来聘の日記[illegible]其中[illegible]

大井川 水悍架浮幸卯行阻漲二日拠[illegible]阻漲[illegible]

川幅[illegible]

山水

山皆發祖於東北故地東高西下山大曰富士

湖大曰琵琶嶺險曰箱根余不足論予先[illegible]

峠頂[illegible]時中國九列[illegible]

韓客の説其要[illegible]

(六十八)僧義堂の日ユ集ヨ讃列圓席似圓蒲宜暖宜寒箇様無從

此小軒游息処不愁座客欠[illegible]

の像ヨ[illegible]讃列の圓席[illegible]

いへるなるべし　又僧横川が京華集巻六讃岐國福家藤盛顯刻之望
族也其所作歌地曰圓坐公築別墅於是輞川平泉可併案焉
讃岐圓坐のつゝみ
(六九) 世よ劍み弟る仙人の圖と名づくる上利劍
陽の海と
公年十二能作詩有以呂純陽渡海像求題者公援筆書曰扇
作帆手劍作舟飄然真渡海洋秋饒他弱水三千里終到蓬萊
第一洲公之氣宇已見乎此矣
(七〇) 佛祖統紀云布袋背上有目水戲之時人知之今畫袋の
(七一) 長崎竹の画の賛と清の胡兆新名振が書
乙丑春抄四月朔日
凌霜盡節無人見　終日虛心待鳳來
蘇門　胡兆新書
乙丑ハ文化二年なり此四月朔日より主夏の節なり
(七二) 清の江泰交名来が画梅と蟹の画
長崎山に西遊記第二十回に三藏問道老施主高姓老者道姓
王云又問年壽幾何道痴長六十一歲行者道好二花甲重逢矣
の詩あり此方の人本卦がるべし

(十三) 文化六年己巳の春大師沙弟金剛山平間寺にて彫刻
碑とする所の面に

寛永五年

南無阿弥陀佛

三月廿一日　雪翁月盛居士

その背に

武州江戸京橋紀國屋櫻井又大夫正月二日御夢
所六郷大橋蒙大師御筆此名号法名雪翁月盛居
士万人染愚筆為供養也

とかくこの碑に彫りたる人々の名号を思ひしに其
のち深井子喜の東海道名所記をとられ
ほどあけて大師沙弟に入唐し
わかの浦新宮にて法然門に入て年々の
此浦よりの船にて梶師にもげ
と名づく其木像に牡蛎がひしと
中に江戸京橋に紀國屋仏内にて一文不通の者有
高麗にて仏内にて山本像
にあるおよ夢に大師きたりて二字の名号を書
ほきぐにに思ひ大師川沢に
のにて筆一対をこしらへ
にて大師風の名号を像に
きて法然大師沙弟に
にて人々に
一字にて

但此文中より低内くあるに掘井より誘ふと音信よりてあやまり

(十四) 僧横川の京華集に戊子五月廿七日宿北岩藏松月庵に主出唐紙一片請余天神七字号且求題其上曽閲北禅老師語録有賛六歳童所畫七字之語余亦傚之六歳童者壽鶴滿九云者歟とあり按ずるに鎌倉志云荏柄天神い神宝ある名号一幅彩滿九と云畫とアリ相傳フ親書上人ノ童名ナリト

(十五) 陸奥國福島領山口村より戻掛ふあり土人の説あるあり昔年修あるて忍の山より多屋と結ひ修ひ畫くに世くふかくるより彼修菴の物ふあるに千枝より貌とふの面に彫く丹青の筆にて塗紳布よりて説者の説狼号服の衣といふべきなの貌来るこぶるにより掛くしのとふの深ふ世の人とを驚ぶ傳ふかくるの

きろ物と油すくに茅に毋とまるつるに星ふくるゆるるふどふ水中ようるもくに綾の紙に亡あるにおのぶ形ふよ人よ形ちくどきるに此山里より田ま寺ふるふの功と失い修てふのもりてを考の葉にて磨ぐるに人ふ新ふを修ていふ出ふむしひもりりふう事ふるに人ときるい歌ものふ多くに尋茅に麦の茎と求くふと磨くてを山る者ふくに里より勝耕田の蓋ふくるを巻くふと失くあよ二十人余の力者よむふるくを造るる沈の中へ刺ーふ倒ーふ多中に細ふるく水中へ伏ふくに其好自ふる紙の水絶てまふ砕ふるくふの孫よ厚ふふ長ふるくまでふくふくに細布と深ふふふるふふふ人ふふと磨ふ云めふ

以上縁起文 按ずるに清の王凝齋名懐秋燈叢話巻十三 予邑之衆山

馬文齋画

りゞぞり石之図

險峭奇勝俯臨大海始皇東遊不夜求神仙曾登其上李斯奉
命篆文勒石山巔百年前尚存因摹搨者衆邑人疲於擔論乃
仆其碑於海為巖樹枝柯所承得不墜航海者皆望見之和漢

（手）下学集云江南所無梅一名也但日本俗所呼欤予謂南宋
范曄詩云折梅逢驛使乞與隴頭人江南無所有聊贈一枝春
蓋取此第三句意而云江南所無欤物之須磨寺櫻此華江南所無
制札紙之主一云須磨寺其文云須磨寺櫻此華江南所無
也一枝折盜之輩者任天永紅葉之例伐一枝者可剪一指
寿永三年二月日云云此制札の文を疑ふ久し江南
所無の梅の名を櫻とするは文化元年七月のころ
西遊の時とうつす須磨寺の櫻とかける櫻

の字紙のもとのまゝにうつしたるに源氏須磨寺櫻と
さゝさゝさゝと書てと以つかよ附合ふ光源氏と源九郎と
ふる櫻に江南所無の名をつけるはいとをかしく
桜ゝ此華泰山府君ソレ桜一りく花
ふる木の櫻と標ゝ樹とかゝ仆よ源氏千
と称ゝ櫻寿院と云ふ坊ふ古よりゆ船事不詳のれること
ロとゝてやまるの国西悔中ゞ繰返ぐけりと論しく
ゝ梅の制札と櫻の名木あるべ久て広ゝまの什物ゝゝふる長
と云つ因ゝ云甲陽軍鑑第四十品関東上杉家代花の制札ゝ此櫻花一枝も折
ルゝ人あるゝ八間源義元罪ゝ作件ゝと考ゝ仍件ゝゝゝゝ
ふるゝ扨又信玄公甲府穴山小路ゝ三寺ゝと注花寺ゝ紅梅の田楽一ふの
ふるゝ戸ゝ見るゝ近国ゝ多ゝゝつさゝ多ゝ三寺ゝ花

頃ノ方ニ
此藩江南而忘一
枝於盜ミ事有
仕天永紅葉例

伐一枝者丁勢
一指
寄永二年二月日

文宝縮写

の制札を請ふて則禁制の札を此一枝に葉〳〵に〳〵〳〵
葉〳〵に〳〵〳〵〳〵

島ゾ嬉シキト詠テ其マヽ海ニ沈トナン故ニ兒ガ淵ト名クトナリ岩ノ間ニ白菊ガ石塔アリ右ノ詩歌八清稽詩文ニ載タリ自休ガ像法華堂ニアリ同書巻二法華堂八西御門ノ東ノ岡ナリ相傳頼朝持佛堂ノ名也中略又異相ナル僧ノ木像アリ何人ノ像ト云事ヲ知人ナカリシニ建長寺正統菴ノ住持顕應此像ヲ修復シテ自休ガ像也ト定メタリ兒ガ淵ニ云傳ヘタル自休ハ是欽又僧文之ガ南浦文集ヨ與自休翁書自休翁亦本備之前列一勇士也ヨリ此自休ヲ詩ヨリ詳按ズルニ自休翁ハ竹生島ヨリ出シ詩ヨリ考列巖島住ヲ額ヲ書ヲ以ヲ出ヲ辨財天ヲ信ジ人ヲ

(十八) 容齋四筆巻十五ニ云山南為陽水北為陰穀梁傳之語也若山北水南則為陰故郡縣及地名多用之今略叙於此云合山水之

孫陽者百有五六十至陰字則甚少蓋面勢右背自難立國邑耳山之北者唯華陰山陰云云水之南者汾陰蕩陰云僅三十而已若梁陽南陽合陽被陽富陽(僊業山者)昌陽建陽(僊業海者)武陽之類尚多有之莫能知其為山為水也按ズルニ此方の地名ヲ修ルニ國号ヲ下ニ陽ノ字ヲ称スルヲ又此ノ方ヲ陽ノ方ヲ称スルヲ又此ノ方ヲ陽ノ方ヲ称スルヲ

(十九) 清人の說郛ニ明ノ代ノ人ノ前明ヲ前漢ヲ倒ニ述ルヲ明東吳張愛平ノ宝繪録ノ凡例ニ國朝名公輩出不遜前元集中自不可少云云ヲ云ヒ明ノ代ヲ元朝ヲ前元ヲ云ヒ又倒ニ述ルヲ又倒ニ述ルヲ孟頫玄葉手帖ニ華亭陸悅道以醫名於前元云云

(二十) 祇園執行日記云南朝正平七年壬辰正月一日三月十五日

鎌倉殿入洛以来又用觀應三年為
文和元年依代始也正月小六日堀川神人役七種菜沙汰人
行心法師持参　ナヅナ　クヽタチ　午房　ヒジキ　芹
大根　アラメ　各方五寸折敷次ニ各入也并外鹽噌各一ツ土器
在之　ハ　ヒ　フ　ヘ　ホ　一種ノ七種ノ
(注)　柯山隨筆　坂將曹平光云太閤秀吉公奥州征伐の时駿河清水寺
より宿寺へ移し置て猶しかの序とて猶しかの其事
にかの寺の什物の心ちつるよ予去し果芝岩老呼よ約して彼寺
とかくく記しをあの使文り　東夷征伐の老天正十八年三月
のうちつゝ都とくくいくゝ後の国清見寺まつゝ後の使者の
風景奇絶みくく言語もえこゝ　ヒ　ミ　ム　メ　モ　ヤ　ユ　ヨ　ラ　リ　ル　レ　ロ　ワ　ヰ　ヱ　ヲ　ン
松の雪眺ものゝ眺もゝに其奥深うしゝ庭ちの青葉がうみの

の苔もゝに伊ふ〳〵苔ふ〳〵五ツ目ふ〳〵ふ〳〵東のえびて
てゝふ〳〵げゝふ〳〵みゝふ〳〵でゝひゝ見ゝ国氏てゝ
ひゝふ〳〵にゝ〳〵ハ月首ふ〳〵又ふ〳〵寺ふ〳〵当寺の大殿
老尤深刹の西京ゝ凡俗ゝ〳〵ゝ重院のゝ
ゝ加ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

者い十歩より九〻び目〻つゝ[illegible]に八湘と持く一[illegible]の中[illegible]
[illegible]〻〻〻手乱を逐く〻京より赴く日富士梵容を指ぐく[illegible]
[illegible]〻〻〻〻〻西海一望を響く斯界懷と述蓋徐凝が姥の嘲に
倣[illegible]〻〻〻〻〻

假名の葉〳〵老境を学ぶごとく奥妙拙を加へ元厚の家風を
ふの唐詩訓解ハ徂徠の手きしとゝ似〳〵元深庚子八二月ハ
徂徠初年の手蹟なり〳〵但平景九の名ハ〳〵こゝかゝれ
〳〵印ハ雙杉の字あり〳〵但徠の初号名なり〳〵詩経ハ徂徠之松
あり〳〵陟彼景山松柏丸ニ〳〵景九と和歌の名〳〵
カゲマロ〳〵訓ゼり〳〵ふ序の細注ニ〳〵おかよりし也名人
名ハ朱引ハ濁字ハ朱点ハ〳〵先輩の苦心ゑ〳〵餘あり

(盆)藤本由己の春駒狂歌集巻ハ南郭服子遷の序ハ

人世間口大笑者自古難得何也因快意難〳〵爾雖然溺
堂溢場揚眉露齒且笑且倒不任鉗口而衆挙喧騰嘈〳〵
耳根不知何言者今多有之是彼豈不快意者而文人才
子不笑風雲水石花鳥魚鳥吾不知其於彼如何耳若夫
會風集騷拈題勒韻或吟或詠而奇趣横逸烱〳〵眼前不
能自持者世何為之是此亦何不快意者而庸人孺子不
笑何翅庸人孺子不笑風雲水石花鳥魚鳥吾不知於此
也何耳友人蘇思由己放言自快始不求快ハ人而一嬉
首一粲舌斐然為章脉然為欣似雅不古似俗不野亡問
文人才子亡問庸人孺子能使人ニ大笑自笑也至若花
為之勒靨鳥為之躍趾風之彝雲之飛水涌石鳴魚跳鳥
跂悉似有笑態者是果得何道也想其蘇思胸懷不必雅
不必俗是以其快也在雅亦得在俗亦以亦嘗有所謂雅
俗塊然者ハ其胸懷但其味嘗有所謂雅俗塊然者ハ其
胸懷也天下大風流大快活其亦能有迎蘇思者乎故非
獨使人ニ大笑而又能使造物者為之絶倒也千載之後

亦或有古蒙莊者出一遇之則其必以為開口大笑者旦暮遇之也已龍逝癸巳晩夏

南鄭散人題（字金子遷）

拗ぶるに龍飛癸巳とは正徳三年なり岷庵初年なり仮りに文集に載せるなり　若本由己ハ理菴と称し柳澤家の醫なり　徂来集に題藤理菴卷七絶あり　櫻下聲名自古聞雕龍炙轂日紛紜最憐侍宴歸来晩懐肉還應餽細君

（八五）豊後三浦安貞が詩轍に云高師直鹽冶判官ノ妻ニ貽ル返ス

サヘ手ヤフレケント思フニゾ我文ナガラ寸モヲカレズト云歌ヲ徂徠譯シテ

我思美人貽之書　美人不見棄庭除
吾拾吾書帰十襲　心謂美人手所餘

ト譯シタリ　月ヲミントテ為セシレバ空ニ知ラレヌ微雪フルト云フ欽

長崎ニテハヤリシヲ或人清人ニ逢ヲ乞フ清人即吟ノ曰

欲見嫦娥望白雲　春月朦朧微雪紛

是等切實ナルベシ徂徠ノ譯若韵アラバ翻訳トイハンモ可ナラン云云

近ごろ俳諧師蓼太が愛句よりみ一ふたあるに杭の俤と云ふ

味と清人程剣南が詩よつくづくと見るに長夏草堂蔵連雪聽雨

眠何時懸月色松影蕩庭前　拗ぶるに惜らくは其情景とつくづく

杏園主人就て明人の日本風土記の例よりくたみ譯と

五月雨　阿児夜披促革尼松那同

呼音　五月雨　撒密他列　夜要　松麼子　月紫氣

讀法　撒密他列耶阿兒要披促革尼麼子那紫氣

釋音　五月雨正音耶助語阿児夜一夜披促革微尼助語松正音那助語月正音

切意　尋常五月多陰雨一夜松間微月露

是ヨリ始メ

(六六)同書又云八居題詠附錄新井白石容奇ノ詩アリ曰

曾下瓊鉾初試雪　紛〻五節舞容閒
一痕明月茅渟里　兄片落花滋賀山
提劍膳臣尋虎跡　捲簾清氏對龍顏
盆梅剪尽紙留客　滸得隆冬無限艱
近刻日本詩史此詩ヲ載セテ曰白石冬日人ヲ訪フ主人容奇ノ字ヲ
昏メ示ス白石是雪ナルヲ知テ此詩ヲ賦スト杏園主人就チ顰ヲ倣
紫氣及法乃の詩とつゝと此ニ附記ス

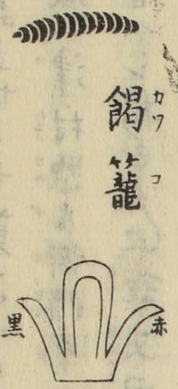
紫氣

日下曾生第二尊　雲樣攀尽白天門
風光浪冷須磨浦　草色秋深武野原
田首晁卿望本國　經年在五哀王孫
何人更伐庭前桂　遂旅良宵對酒樽

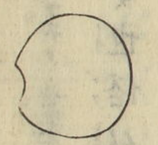
法乃

朝慰初發一枝花　百世流芳勢海涯
寧樂雲生連吉野　多山霞起隔高砂
旧都寂ニ烟波冷　春宴臘ニ夜月斜
若得幽魂化為蝶　他生猶自在江家

(六七)東海平子文名維章称篠崎金吾朝野雜記ニ云上世ノ干菓子四品アリ其形左ノ如シ



餅籠



桂心

渾沌

加久縄

右四品上世ノ干菓子ナリ此外ニ更ニ無之濱島内膳傳ヘテ其圖ヲ藏ム津村惣左衛門ニ傳フ菓子ノ菓艸冠アルハ訛ナリ果子ト呑べシ掲ぐるに誼文曰果木實也俗从艸者誤とあり果子い

り木実なりとぐ〳〵の寒具と乾菓子〳〵源順和名鈔ニ

餛飩四聲字苑餛飩餅判肉麪裹煮之 餲餅四聲字苑名煎麥作蝎夷形俗云餲餅 あゝ又歡喜團のトハ一名團喜

俗以梅枝挑枝餲餅桂心黏膊饌饌餈子團喜謂之八種唐果子〳〵え

ゝ餲籠桂心渾沌の三い唐〳〵ゝ俗〳〵かゝ久縄い此方の製まゝ〳〵〳〵の

果子まゝ加久縄の形〳〵〳〵と俗ニ祖ちゞ〳〵〳〵〳〵古今ニ語の雅俗とゝ

ゝ〳〵近世都下乾果子の製造年〳〵ニ奇巧と競ふ〳〵甚〳〵つけ

〳〵〳〵上世の質朴とゝ〳〵〳〵〳〵上世ニ〳〵〳〵〳〵

九十 菊の葉と油の漬あげて今人有采菊
葉煎麺米食之者其味香尤勝枸杞餅也

九十一 菖蒲茶
菖蒲茶を飲の五山の僧の詩集を見京華集云菖蒲茶
端午詩福住山絶迫旬有茶多酒遇佳辰菓更重九菖蒲五一
椀中盃萬斛春又霊梅集云菖蒲茶半升鐺内煮軽柔獨二蒲
茶飽即休九節昊苗供一啜蜻蛉欲立釣絲頭又蒲簑蒲劍蒲
帯等の詩多し

蒲簑 端午

九節編成隨白鷗浮生四海一蓑裘漁翁披得避風雨欲立蜻
蜓亦自由

蒲劍 伊州安國西堂梅室獨吟百首

天下曽令三尺安淄池蒲葉莫兼干晩風振起青鋩影水底蛟
龍騰可寒

蒲帯

風蒲一帯結依二刑楚児童端午衣爲吊昊均吾太瘦青二尖
す減腰圍

菖蒲と簑を太刀と帯とかけ方の古六衛府の菖蒲
輿まとい菖蒲の根と結び類なべ

九十二 足利学校よりの歸藏扱易の王弼注と守仮名と講義と書
しものもと首に周易要事記と篇あり諸式と細ょ誌和漢易学伝
来の書あり委載と在巻末末文明丁酉十月廿日紫之土月廿日終之滴
翠亭亭と書と蓬萬と云茅印あり其講義の中ょ間し書付の事と説
不ひ霊ノ上六ノ條ニ云鎌倉ニ易ヲ閑時我師ヲバ喜禅ト云タゾ其師ヲバ
義臺ト云タゾ其喜禅ノ語ラレタハ我易ヲ傳ルす鎌倉持氏ノ乱ニウゾ

其時諜著天下ノ乱ヲ占フ時コノ需ノ上六ニワウゾ有不速客三人来云〻自ル以
来不見其可否ゾ後ニ鎌倉ノナリヲ聞ランゼヨト云ハレタリ又其後重氏出頭ノ
時足利ニヲイテ易ヲ構ズルす持氏ノ時ノ筮ノヿヲサタスルニ其占符節
ヲ合セタルガ如シ其故ハ重氏出頭兄弟三人不速来テ重氏ヲ扶タリ
弟ハ美濃ノ土岐ニ養セラレテ雪ノ下殿ト云タ一人也聖道デアツタゾ又
ノ弟ハ僧ガ一人アツタゾ又重氏ノ一ノ兄ガ美濃ニアワタゾ其ハ俗人ゾ以上
三人来テ重氏ヲ扶タゾ重氏ツヽシミテ居ラレタニヨツテ貞吉也今ニデ
無為ナルハ奇特也易ヲ信ズ蓍ヲトラバ違フヿハアルマイゾとあり此ごと
もうと新楽閑叟の話なり

南畝莠言巻上畢

酒井彪三編輯

大日本一統輿地分國圖

貳十三万分一縮尺 銅刻縮圖

全部八十一枚

附リ府縣五港ノ圖

○東海道 十二枚 ○畿内 三枚 ○東山道 十三枚
○北海道 十四枚 ○北陸道 五枚 ○山陰道 七枚
○山陽道 八枚 ○南海道 六枚 ○西海道 九枚
○琉球 三枚 ○大日本全圖 壹枚

茲圖ハ故人伊能先生全國測量基線ならびに国境郡界及び山岳河渠道路の位置を正し且維新爾來諸藩各縣の地圖を集め時習義塾に於て地學の先生を會し泰西の畫法に倣ひ一国一葉にして側ら都府名邑の圖を舉げ支号ノ至るまで漏さずして編集せしものにして能く其要領を得たり我邦地圖未だ在てもこれ程の細精なるを見ず世の諸彦地理を明らかにせんと欲せば購求愛觀有ん事を請ふ

東京日本橋區本石町十軒店書林 嶋喜兵衛敬白